

2025年度 法科大学院

第1期入学試験問題

2時限

民法

(論文式)

試験時間 50 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民法]

つぎの文章を読んで、以下の（１）および（２）に答えなさい。なお、解答にあたっては遅延損害金の点は考慮しなくてよい。

金融業を営むXは、令和４年５月１０日、Aに対し、弁済期を令和４年１１月３０日と定めて１００万円を貸し付けた。その際、Aの友人であるYは、連帯保証契約書を作成しXとの間で連帯保証契約を締結した。令和４年１１月３０日が経過しても、Aは借入金を返済をすることができなかった。XはAに対し支払いを催促したが、Aが持病の悪化により入退院を繰り返していたこともあり（もともとAがXから１００万円を借りたのも治療費をねん出するためであった）、Aが体調を回復するまで、しばらく様子を見ることにし、そのまま月日が経過していった。ところが、Aの体調は一向に回復せず、Xに対して体調が回復次第、支払うと言っただけだったので、Xとしてもこのままにすることはできないと考え、Yと面談し、状況を説明のうえ、Yに連帯保証人として１００万円を支払うように求めた。Yは突然のことで困惑したが、数年前に連帯保証契約を締結したことは覚えていたので断ることもできないと考え、とりあえず手元にあった５万円だけを支払った。

その後、Yが残金を支払わなかったため、Xは令和１０年３月３日、Yを被告とし、残金９５万円の支払いを求める訴訟を提起した。この訴訟において、Yは消滅時効が完成しているとして、これを援用した。

- （１）Yが５万円を支払ったのが令和９年１０月２５日だったとしたら、Yの消滅時効の主張は認められるかについて答えなさい。
- （２）Yが５万円を支払ったのが令和９年１２月２５日だったとしたら、Yの消滅時効の主張は認められるかについて答えなさい。